

男がいかに阿呆かという話をしようと思う。

まず男は、必殺技に憧れる。この平和な世界はそのままに、必殺技だけほしいと思うのである。誰かを守りたい、できれば美人なお姉さんがいい。美人なお姉さんにちよっかいを出す悪党共を成敗、お姉さんに感謝されフォーリンラブ。このストーリーに男は弱い。戦う、勝つ、女。この3つのキーワードは、なんだかとても、いい。ぶっちゃけライバルとかは別にいい。オプションとしてある分には困らないが、それはそう、例えるならカレーライスにサラダをつけるかどうか位のレベルである。カレーうまい。あ、サラダもいける。この立場が逆転することはない。サラダやばうま、カレーもいいね、ってな人はカレー食わずにサラダのみ食った方が経済的にもコックさんのためにもなんかいい。お得である。というかその志を持ちながら何故カレーをオーダーしたか理解に苦しむ。だからきつとない。

必殺技の話に移ろう。具体的にどういいうものに男は弱いのか。男子諸君、懐かしき日々を思い返してほしい。女子諸君、身近な男子に訊いて頂きたい。以下に齡二十三の筆者が憧れた必殺技を列記してみる。必ずや該当するはずだ。まずはウルトラマンシリーズである。

・ スペシウム光線・アイスラッガー・八つ裂き光輪

かけてもいい。この3つの技、出し方を男子は心得ている。臆病な自尊心と尊大な羞恥心さえ跳ね除けられれば、男子はすぐにこのフリを披露してくれるはずだ。

次にヒーロー編。ここからは多岐に渡るので、私が思う同世代の男子に圧倒的に支持を受けたと推察される必殺技を挙げたい。それは何か。

「牙突」である。牙突零式。漫画「るろうに剣心」のキャラクター・斉藤一の技である。字数に制限があるため詳細を述べる事は出来ないが、掃除の間箒片手に同級生に牙突を見舞った経験のある男子は少なからずいるはずだ。間違いない。他にも波動拳・フュージョン（必殺技ではないが）・キック力

## OIRANテーマ作文

### 「或る阿呆で一生」

鈴木梢

増強シューズ・エクゾディアや、最近の男子においては卍解・螺旋丸・ギア2の三大必殺技が挙げられるが、技の繰り出し方の特異性から私は牙突零式、ないし二重の極み、龍槌閃等、るろうに剣心の必殺技たちを推したい。

男子諸君の中には異論のある方もいるだろう。筆者もそれは承知している。何を隠そう筆者にとつての最高の必殺技は鬼太郎の髪の毛針なのであるから。「ぴゅんぴゅん」と音を立てて髪の毛が飛んでゆき敵に刺さる。しかもすぐ生える。痛快ではないか。幼いときに私は何度踏ん張ったか知れない。しかし髪は飛ばなかった。私は幽霊族ではなかったたのである。しかしそれでも私にとって髪の毛針はダントツであり、男にはそれぞれマイフェアリット必殺技がある。反論をきっかけに、個々人に眠るマイフェアリット必殺技を思い出して頂ければ幸いである。

さて、ここまで駄文を書き連ねてきたが、必殺技に関してはあくまで男という生き物の一端を説明したに過ぎない。男はまだまだ阿呆である。最後にもう一つ書こう。男は、この黄金比の逆にも憧れちゃうのである。耐えがたきを耐え忍びがたきを忍ぶ精神である。つまりどういうことか。

戦う、勝つ、女。この三種の神器を目の前に出されても、それを受け取らない心意気。そこに男は逆説的に憧れる。実際それを目の前に出されたら十中八九男はなびくだろう。しかしその中で何にもおもねる事なく我が道を突き進む男の中の男。庭田悠甫は戯曲「馬鹿」の中でこう言っている。「アニキ」と。その存在に男は自らの理想像を重ね合わせ、崇める。いつかそんな男になりたいと目標にする。

しかし忘れてはならない事実が一つある。そこには孤独が付きまとうのだ。孤独を愛する事の出来る人間しかアニキにはなりえない。孤独を生き、孤独を愛し、孤独に死す。傍らにはギター。そう、孤独を愛する男にはギターがよく似合う。ギター。アコースティックギター。ギターを爪弾き、孤独の中愛を歌う。男の理想の生き方の一つだ。これも、必殺技の一つではないだろうか。そう、つまり男はポップでロックなヒロイズムに憧れると同時に、自らに流れる孤独を愛する心をも同時に愛しいと感じてしまうのである。面倒くさい。しかしそれでいい。男たちよ、スナフキンであれ。Be Acoustic!!